▼頓珍漢三人男

帝キネ芦屋現代映畫

原作並脚色者　高木英雄氏
監督者　大森勝氏
撮影者　岡本靜夫氏

――主要役割――

針鼠の仙吉　大河慶三氏
秀麿先生　藤間林太郎氏
姫森桂馬　濱田格氏
志摩津華子　二條玉子嬢
その娘美奈子　金澤美都子嬢
仙吉女房お春　松村玉尾氏
その娘お峰　石井敏子嬢

解説――「親心」について大森勝氏が監督製作した現代劇である。

略筋――うらゝかな春光を浴びて江尻から静岡への街道を歩く二人の男、一人は掏摸の親分針鼠の仙吉と一人は素性の知れぬ秀麿先生と叫ぶ馬鹿者で共に恐しい大震災の中から逃れて來たのである。茶店の前で無錢飲食をして毆られてゐる姫森桂馬といふ男を救ひ三人打ち連れゞ歩く内空腹を覺えた彼等は盜んだ果物を食つて追手に脅かされ桂馬は何處ともなく姿を消した。大阪へ來た二人は支那街の料亭で仙吉の女房お春と死に瀕した娘に巡り合つた。夫婦は金と子供が欲しいと嘆くので秀麿先生はある邸へ忍び入り金と子供を盜んで來た。それを追つて來たのは桂馬であつた。支那街の紅珍園では時ならぬ亂鬪が起り其處に巢喰つてゐた惡漢共は捕へられた。志摩津華子夫人は桂馬探偵と共に地下室に入り子供の無事を見て喜び更に突然といた秀麿先生を見て驚いた。實に秀麿こそは夫人の夫志摩津子爵だつたのである。意識を取戻した秀麿、初めての探偵に手柄をたてた桂馬、子供を救ひ子爵家に引取られゝ仙吉夫婦、彼等の上にそれ〴〵の春が輝いたのである。

寫眞……「頓珍漢三人男」帝キネ大森氏作品。右より濱田格氏大河慶三氏藤間林太郎氏